



2016-2017年度 主題

国際会長 : Joan Wilson “Our Future Begins Today”
 「我々の未来は、今日から始まる」
 アジア会長 : Tung Ming Hsiao “Respect Y's Movement”
 「ワイズ運動を尊重しよう」
 東日本区理事 : 利根川恵子 「明日に向かって、今日働こう」
 湘南・沖縄部長 : 若木一美 「あなたが退会しない理由は？」
 ～明るく・楽しく・元氣よく～
 クラブ会長 : 林 茂博 「仲良く、楽しく、無理をせず」
 ～今日という日を大切に～



今月の聖句

「大勢の群衆が、足の不自由な人、目の見えない人、体の不自由な人、口の利けない人、その他多くの病人を連れて来て、イエスの足もとに横たえたので、イエスはこれらの人々をいやされた。」 マタイ15：30

横浜つづきワイズメンズクラブ例会ご案内

事務例会 : @ 田園都筑教会
 毎月第2火曜日 18:00~
<http://www015.upp-so-net.ne.jp/tsuzukich/>
 本例会 : @ かけはし都筑 (都筑区社協)
 毎月第4金曜日 18:30~
<http://www.tuzuki-shakyo.jp/index.html>

《巻頭言》

YMCAの会員制度とワイズメンズクラブ

会計 鈴木 茂

ワイズメンズクラブの会員は、ご存知のように、原則としてYMCAの維持会員となることが義務づけられている。またワイズメンズクラブ国際協会の「国際憲法とガイドライン」は、第2条「綱領と目的」3項において、すべての加盟クラブは“第一にYMCAのためのサービスクラブとして活動する”と定めている。さらに、世界YMCA同盟とワイズメンズクラブ国際協会は、2011年4月1日付で改めて両者間の協力関係の原則を確認する協定を締結している。



ところで万が一、各地のYMCAが維持会員制度不要方針を掲げ始めた場合には、ワイズメンズクラブ(以下ワイズ)は、YMCAに対してどのように対処すべきであろうか。現に、最近の米国各地YMCAのウェブサイトを見ると、いずれも会員(“membership”)募集は行っているが、その会員とはもっぱら「プログラム会員」を想定しており、私どもがイメージするYMCAの維持会員像とはかなり隔たっている。米国各地YMCAでも寄付やボランティアを募集しているが、それは会員に対する呼び掛けではない。寄付文化・ボランティア文化が進んでいると言われる米国においては、YMCAはもはや維持会員制度そのものを不要としているのではないかとさえ思われる。近年、米国におけるワイズ活動の低迷が伝えられているが、こうしたYMCAとワイズ間の維持会員関係の希薄化がその背景にあるのかもしれない。

➤ れに対し日本の都市YMCAは、多くの場合ウェブサイト「会員制度」の見出しを設け、「会費を支払う維持会員として、同時にボランティアとして様々なかたちでYMCAをお支え下さい」といった維持会員募

集のアピールを行っている。

ところが最近、日本の都市YMCAでも公益財団法人化等を契機に、維持会員制度の不要論もしくは脱却論が聞かれるようになった。YMCAの活動に参加するすべての人々が会員であり、すべての関係者とともに活動を推進するためには、維持会員制度は必ずしも必要ではない、というのがその根拠であろう。

最近のYMCAは事業体化が進み、事業活動の大部分は高度の知識と技能をもったスタッフによって運営され、維持会員がボランティアとして参加する活動余地はごく限られている。維持会員が事業委員、運営委員、理事、常議員等として活躍しておられる方も少なくないが、やはりその数は限られている。このように考えると、維持会員によるYMCAへの協力といっても、会費、寄付など金銭的な協力が精々という実態もないわけではない。

また、YMCA側とすれば、維持会員が理事、常議員、委員等として組織運営面に関わることで、うるさい存在になっていることも事実であろう。とはいえ、一部のYMCAがこれまで何回も挫折や失敗を経験しながらも、苦境を乗り越え過去100年以上にわたって存続し、発展してきたのは、維持会員制度をバックとした理事・常議員・委員会制度が機能してきたからだとも考えられる。YMCAが仮に維持会員制度を放棄するならば、それは公益財団法人とは言いながら、特定の理事、評議員等だけで運営される単なる非営利法人と何ら変わらない。そこでは、YMCA本来の理念や使命に基づく活動、あるいは会員組織に基づく運動体としてのダイナミズムから遠ざかる危険性が極めて高くなる懸念せざるを得ない。

様々な制約はあるにせよ、維持会員による事業活動への参画がYMCAの活力と市民感覚にマッチした時代への対応力の源泉であるとすれば、維持会員の強力な供給母体であるワイズの役割は極めて大きいと言わざるを得ない。ワイズは今後ともその (P7下段へ)

《報告》恒例の、横浜YMCA/湘南・沖縄部合同新年会が1月下旬の土曜日に中華街で行われました。
鈴木恭子ワイズの報告です。

日時： 2017年1月21日(土) 18:00～20:00

会場： 横浜中華街 廣東飯店

参加者： 今城H,T、岡田K,M、久保、鈴木K,S、
辻、山中、(全出席者 53名)

ホストクラブ：横浜とつかクラブ

参加費： @5,000円

冬の夕暮れの寒空のなか、コートの襟を立てて向かった会場は暖かく、皆さま楽しそうに歓談をされていました。私も最近、ご挨拶のできる他クラブの方々が少しずつ増えてきました。

開会礼拝 司会 井上孝一・部担当主事

全員の黙とうに始まり、讃美歌312番、聖書朗読(マタイによる福音書5:15-16)、井上主事の祈祷と続き、短時間ながら静かな礼拝の時間が持たれました。

第二部 祝賀の式 司会 加藤利榮・部書記

若木部長による開会点鐘、ワイズソング、ワイズの信条唱和の後、三人の方のご挨拶がありました。

田口総主事 年末・年始にミャンマーを訪問された際の医療・公衆衛生活動を通じた現地の子どもたちとの交流体験のお話がありました。また、富士山YMCAの10周年記念事業として、子ども施設の拡充整備を計画しており、そのための2,000万円の募金協力のお願がありました。

利根川理事 今年度の会員増強目標の達成に向け

た意識喚起と、今年の川越での東日本区大会への出席のお誘いがありました。

若木部長 湘南・沖縄部創立20周年を記念して作成した「年譜」の紹介と次の祝賀の舞のご紹介がありました。

20周年記念祝賀の舞 若柳流 若柳三十郎氏

若手男性舞踏家が取り組む創作舞踊は、身近に見ますと、所作や視線の動きなどに圧倒され見惚れました。

<記念撮影 参加者全員の記念撮影>

第三部 交流会 司会 小俣横浜とつかワイズ

長田クラブ担当主事

長田・とつかクラブ担当主事の食前の祈り、茂木YMCA理事の乾杯で会食が始まりました。

9名着席のわが円卓はつづきクラブのメンバーのみ。次々と運ばれてくるお料理は美味しく、おしゃべりは尽きません。宴半ばに、ご来賓として出席された利根川理事、栗本次期理事、大川次期書記、札埜次期事務局の方々が紹介されました。そして再び若柳先生が、日本全国の有名な民謡をメドレーで踊って下さり、皆さんの喝さいを受けました。その後横浜YMCA出席スタッフの紹介、参加クラブの紹介、その他アピールがあり、最後にYMCAの歌をみんなで元気に歌い、金子次期部長による閉会点鐘で会は終わりました。

横浜北YMCAだより

年末年始の北YMCAでは、冬休み期間に行われた短期講習会、ウインターキャンプが実施され、多くの方にご参加いただきました。今回も子ども達にとって「チャレンジできる冬」として各プログラムが準備され、北YMCAだけでも約600名の子どもたちが元気に参加してくれました。今年は雪が早くから雪が降っていたので油断していただのですが…ギリギリまで雪が降らずドキドキしていましたが、キャンプ直前に雪が降りなんとかスキーを実施することができました。「小さなできた」が子どもたちの自己肯定感を育みます。また生活面では、インフルエンザの流行により、キャンプ中体調を崩す子ども達も多く、健康面での対応が多く求められたキャンプでもありました。

鶴見区から委託されている「鶴見区寄り添い型学習支援」ではクリスマス会を実施しました。様々な課題のある子どもたちですが、大学生たちの企画のもとゲームを楽しみました。また、中学3年生はフェアスタートの永岡さんにご協力いただき、「仕事をする」とのお話も伺いました。

子どもたちにとって新しい春への第一歩です。

《2月行事予定》

- 2月11日 YMC A会員大会
- 2月18日 ピンクシャツデー講演会
(水谷裕子氏) @中央YMCA
- 2月22日 ピンクシャツデー
- 2月24日 つづきワイズ・北Y交流会



横浜北YMCA館長 山中奈子
(つづきクラブ)

《特別報告》

ワイズメンズクラブ日本区が東西に分かれて20年が経過したのを記念して、第2回東西交流会が12年ぶりに開催されました。記念会に出席した鈴木茂ワイズと辻剛ワイズによる報告です。

第2回東西日本区交流会参加報告(1)

鈴木 茂

日時 : 2017年2月4日(土) 14:00~5日(日)12:30

会場 : 日本YMCA同盟「東山荘」

参加者: 辻 剛、鈴木 茂(全体では東日本区188名、西日本区171名、台湾区<註>11名、合計370名)

実行委員長: 田中博之さん(東京多摩みなみクラブ)

<註>交流会にて、大阪泉北クラブとIBCを締結した台北A-LISTクラブのメンバー。

今年は、ワイズメンズクラブ国際協会日本区が東西に分かれて20年目になる。これを記念して、12年ぶりに第2回目の東西交流会が開催されることになり、私は辻さんとともに初めて参加した。二つの講演のほか、交流プログラム、東日本大震災・熊本地震の被災地レポート、DBC/IBC締結式などが織り込まれ、充実した内容であったように思われる。参加者が東西合わせて350名を超えたことも、素晴らしいことであった。

利根川恵子・東日本区理事による開会点鐘、ワイズソング、聖句・祈祷、来賓・理事挨拶等に引き続いて、日本YMCA同盟理事・中道基夫氏による「YMCAのブランディングとワイズ」と題する講演があった。中道氏は講演の中で、現在のYMCAはキャンプ・水泳・ジム・専門学校・保育・高齢者介護など事業が多様化している上に、全国35の都市YMCAが個々バラバラに事業を展開して

いるので、世間一般の人びとからはYMCAが何をやっているのか、極めて見え難くなっていると指摘された。その上で、たとえば「スマホ」は電話でもパソコンでも辞書でもないが、「スマホ」と言えば誰でもどんなものかイメージすることができる。そのように、YMCAもいろいろな事をやっているが、一つのロゴでYMCAのイメージを表現できるようにブランドを開発したいと述べられた。その際、そのコンセプトの中心となるのが「ポジティブネット」という概念であることを強調しておられた。

初日16時から開始された交流プログラムでは、LT/LD、IBC/DBC、エクステンション、音楽、ダンス、ウォーキング、ヤング、メネットの8グループが用意され、私はエクステンション・グループに参加した。そこでは、最近設立された東西5クラブ(東京ベイサイド、石巻広域、東京多摩みなみ、北京都フロンティア、<仮称>熊本水前寺【2017.3設立予定】)の会長等から、設立経緯、苦労話、今後の意気込みなどが語られた。大いに参考になったことは、幼稚園・保育園などYMCAの拠点とタイアップして設立した新クラブが成功事例となっていることであった。

夕食懇親会は、新装改築になった本館食堂では収容しきれないために、体育館で立食方式によって行われた。さすがに370名もの大世帯になると、区大会や国際大会の雰囲気醸し出され、ワイズ・YMCAの連携の広がりを実感することができた。初日のプログラム報告は、これにて終了。



改装なった東山荘の庭に集結した、三五〇名を超える東西ワイズのメンバーたち。十二年ぶりの東西交流を楽しみました。

第2回東西日本区交流会報告(2)

辻 剛

2日目の主な行事

(1)【日曜礼拝】(9時～)、

奨励:「私たちは神の作品」
～モナリザのほほえみに学ぶ～、
池田正勝先生(十勝クラブ)

興味深いお話だったので簡単にご報告します。

①アメリカとオランダの大学は、共同研究で笑いについての“表情ソフト”というものを作った。それによると、笑いの表情を見て83%の人は幸せを、9%は『うんざり』し、6%は『恐れ』を感じ、2%は『怒り』を感じると発表した、②赤チャンは、生まれて2、3ヶ月から1日400回くらい笑う。それが大人になると、100回～0回になるという、③アメリカ・アイダホ州のポテカロ市には、1948年5月1日「笑顔条例」が制定された。笑わない人は逮捕され、笑顔作りの講習をうけなければならない。④ワイズは、笑いの多い例会を持ちましょう。

因みに日曜礼拝献金は、殆どの参加者が出席したこともあり177,750円で東日本大震災、熊本地震復興支援金として日本YMCA同盟は贈呈された。

(2)【講演】「ワイズとYMCAの協力関係について」、講師:山田公平氏(前アジア太平洋YMCA同盟総主事、ワイズ国際事業主任/YMCAリエゾンオフィサー、前香港クラブ、現宇都宮クラブ所属)。

- 昨年まで6年半アジア太平洋YMCA同盟総主事を務めた。
- 退職後、請われてワイズ側に立ってワイズとYMCAを取り持つリエゾンオフィサーに就任し、YMCAにアドバイスをする立場になった。
- ワイズとYMCAの関係をなんとか強化したいと考え、2016年の国際大会(台北)でワイズとYMCAの関係について話合うワークショップを持った。
- そのときのご意見を中心に以下、問題点、今後の工夫について説明し、最後に両者のパートナーシップ強化のための「今後の取り組み」について提案をした。

①「共通する問題点」

- i. ワイズからの支援があってもYMCA側にはあまり認識がない。
- ii. 担当主事が次々と交替してつながりが薄くなる。
- iii. YMCAの役員や委員がワイズにはいたが、少なくなってきた。
- iv. YMCAにワイズが手伝うようなプログラムがない(地域活動など)。

②「今後への工夫」

- i. YとY'sが、何を一緒にできるか話し合いや共に学ぶ研修を協働で行う。

- ii. チェンジエージェントなど卒業後の人材のためのフォローアップを協働で行う。
- iii. 担当/連絡主事の役割を重視し、関係を長く保つ工夫をしていく(可能ならシニアスタッフと)。

③「関係強化のための提案事項」

- i. 各レベル(区、部、個別クラブ)ごとに、YMCAとワイズのリーダーが研修をし、その年度の協働事業を組み立てる。
- ii. YMCAは、徐々にプログラムの受託が増え、職員中心で運営している。共通する地域の課題について調べ、ともにできること、あるいはユースができることを新たに生み出していく。
- iii. 2022年にワイズ発足から100周年を迎える。それまでにワイズとYMCAの関係、協働事業を検討し、世界各地で実施できるようにする。

④「今後の取り組みについて(案)」

- i. 2020年のワイズ100周年までにパートナーシップ強化を世界中で行われるように、まず日本からそのモデルをつくる。
- ii. 特別委員会を設け、年2回、東と西で委員会を開催し、その結果をワイズとYMCAのトップリーダーシップに報告する。(年1回)
- iii. 特別委員会の構成メンバーは、東西ワイズから5名程度、YMCA総主事会メンバー代表2名、同盟スタッフ数名およびリエゾンパーソンとして2名(うち一人は山田)で約10名とする。
- iv. 委員は、計画を作るだけでなく、その実施状況を見守り、必要に応じたアクションを起こす。

(注)「国際大会2016での話し合い」、「関係を考えるいくつかの視点」、「良い事例」、「協力して行う活動を生み出す例」、「YMCAとワイズメントップリーダーシップの話し合い」などのスライドは、スペースの都合で割愛させていただきました。(筆者)

【感想】YMCAもワイズも両方を熟知されている山田公平さんだからこそ出来る提案だと思います。「関係強化のための提案事項」および「今後の取り組み」については、早急に行動に移していただき1日も早い具現化を期待します。

誤解を恐れず私見を言わしていただければ、YMCAとワイズはまず、「世界YMCA同盟とワイズメンズクラブ国際協会との間で結ばれた協力関係の原則」(2011年4月1日締結)を再確認することから始めるべきだと思います。東日本区・栗本治郎次期理事は、「ワイズメンのYMCA会員率100%を目指す」ことを基本方針の一つに掲げています。YMCAが、上記「協力関係の原則 第6項」に謳われているワイズへの支援を実行することがパートナーシップの強化に直結すると思います。

(3)【東日本第震災・熊本地震レポート】

- i. 東日本大震災:レポーター／清水弘一ワイズ(石巻広域)
 - ii. 熊本地震:レポーター／亀浦正行ワイズ(熊本西村泰一)
- ・お二人ともビデオを使って震災直後、現状、今後の課題などを説明されましたが、スペースの都合で省略させていただきます。清水さんの紹介ビデオにはつづきクラブがつづめの杜保育所を訪問しているシーンもありました。

(4)【DBC／IBC締結式】

- i .DBC: 千葉&大阪高槻
 - ii .IBC: 大阪泉北&台北A-List
- ・DBCもIBCも盛大に行われ、特にIBCは台湾から沢山のワイズが訪日され、国際色豊かな締結式で両クラブの皆さんにとっては良い記念になったと思います。この後は閉会式があり、お昼は東山荘名物のカレーを食べてそれぞれ帰途につきました。

【感想】

- ・大会テーマ「語ろう！未来につなぐワイズスピリットを！」が具現化された大変素晴らしい交流会だったと感じました。準備、運営にあった実行委員の皆さまは本当にご苦労様でした。
- ・1日目、2日目の講演もまさに大会テーマに沿った大変タイムリーな内容で、参加者の皆さんはそれぞれ参考にされたと思います。
- ・個人的には、さまざまな地域から参加された方々と旧交を温めることができ、楽しいひと時を過ごすことができました。



《トピックス》 旧聞に属しますが、当クラブメンバー9名は、正月気分真っ最中の1月3日、箱根駅伝走路沿いに住まうクラブ仲間のお宅を訪ね、青山学院チーム(ただし1名は日体大)の応援を繰り広げた。路肩で待つこと約1時間。トップの青山学院チーム第9走者が軽快な足取りで走り抜けてから最後のチーム通過するまでの約45分間、声を上げ、旗を振って若者たちに惜しめない声援を送りました。終了後は、メンバー宅に上がり込み、飲めや歌え(文字通り)の大騒ぎ。青学OBで一番張り切っていた某氏が足をつらせて悶絶したのを機にお開き。

感動的な(?)年明けではありました。(TI記)



《例会報告》

2017年1月 事務例会

報告：岡田 美和

日時: 1月10日(火) 18:00~19:45
 (新年会食会20:00~21:30 一心にて)
 場所: 田園都筑教会
 ・出席者メンバー
 今城H、岡崎、岡田K・M、鈴木S・K、田中、辻Ts、
 林M、福島、三木、横田
 ・ゲスト: 胡麻尻真佐、高松満至

◆開会・黙祷

◆総会 議長: 辻Ts直前会長

出席会員12名・委任状3名により総会成立。

- 2017~18年年度クラブ役員について、今城H副会長より以下提案あり。
 会長: 今城H 副会長: 岡田K 書記: 今城T
 会計: 鈴木S 提案通り承認した。
- 次年度(2017~18年)部役員について
 東日本区監事(任期2年): 鈴木S
 湘南沖縄部ユース事業主査 : 今城T
 以上承認(クラブ)される。
 注) 辻Tsは現在、東日本区定款改訂委員会委員および文献・組織検討委員会の委員を担当。
- ゲストの胡麻尻真佐さんよりクラブ入会の希望があり
 3月本例会にて入会式を執り行う予定。
 (総会終了)

確認事項: 進行役今城H副会長

・1月の活動予定(予定表参照)

- 強調月間 IBC/DBC)
- 1/10 クラブ総会・事務例会
 - 1/18 社協ボランティア団体交流会(林M)
 - 1/21 本例会(Y-Y's新年会に合流)

- 1/28 災ボラ 防災拠点・災ボラセンター合同訓練(林S)
- 1/28 北Y運営委員会(久保、鈴木S、横田、岡田M、山中)
- ・2月の活動予定(予定表参照 強調月間 TOF 2/4~2/5 東西ワイズ交流会(東山荘 参加予定 鈴木S、辻Ts)
- 2/11 横浜YMCA会員大会(湘南とつかYMCA)
- 2/14 事務例会(ピンクシャツ・デイ&TOF 缶ぺーン開缶 トン汁・おむすび)
- 2/15 各種献金締め切り日
- 2/18~2/19 部長沖縄公式訪問(参加予定 鈴木S)
- 2/24 本例会・北Y交流例会(司会: 久保 受付: 山中)

行事確認

- ・Y-Y's合同新年会 (1/21)
- ・横浜YMCA会員大会(2/11)
- ・部長沖縄公式訪問 (2/18~2/19)
- ・1月~2月CS活動予定(参加者)確認

報告事項

- ・国際投票 12/22日航空便で発送済
 - ・東日本区定款見直し案に対する中間報告 12/30報告済
 - ・後期半年報 1/2報告済
- 缶ぺーンの開缶は欠席者が多いため2/14事務例会に延期し、後期用の空き缶を各自持ち帰ることとなりました。その後は寒風の中、14名全員ゲストも交えて中華料理一心へ車に分乗したり、歩いたりで向かいました。新年会食会はいつものように大いに盛り上がりました。

2017年2月本例会

(つづきクラブ/北Y交流会)

日時: 2017年2月24日(金)
 18:30~21:30

場所: 菊名「敦煌」
 ・受付(報告書): 山中奈子
 ・司会: 久保勝昭

<プログラム>

第1部 本例会
 開会点鐘 林 茂博会長
 ワイズソング・信条 一同

今月の聖句 相賀牧師
 ゲスト・ビジター紹介 司会者
 会長挨拶 林 茂博会長
 ゲスト挨拶 茂木 雄さん

卓話

「横浜YMCAとキャンプ」
 三浦ふれあいの村所長

森田義彦さん

誕生祝い
 2月17日 山添 訓さん
 各種アピール

閉会点鐘 林 茂博会長

第2部交流会(会費3000円)

司会: 久保勝昭
 食前祈祷 今城宏子
 乾杯 岡田勝美

会食

北Y運営委員・スタッフ紹介

ワイズメンバー自己紹介

YMCAの歌 一同

閉会挨拶 山中館長

ご存知ですか?

とあるネットに、認知症のチェック項目として以下の症状が紹介されていました。複数項目該当の際は要注意!

1. 今日の日付が思い出せない
2. 通い慣れた道なのに迷うことがある
3. 使い慣れている道具の使い方がわからない
4. 簡単な計算に手間取ったり、間違えたりする
5. 親しい人との付き合いが減り、外出しなくなる
6. 料理や洗濯など、段取りが必要なことができない
7. 鍋を焦がしたり、ガスの火を消し忘れる
8. 知っているはずの物の名前や、言葉がうまく出てこない
9. イライラしたり、不安が強くなるなど、情緒が不安定
10. 前に買ったことを忘れ、同じ物をたびたび買ってしまう
11. 同じことを何度も尋ねたり、話したりする
12. お風呂に入るのを嫌がり、身だしなみがだらしなくなる
13. 置き忘れやしまい忘れが目立つ
14. 待ち合わせの時間や場所をよくまちがえる
15. 趣味や楽しみに対する関心がなくなる

《IBC報告》 昨年末、当クラブのIBC相手のランナーズクラブ(デンマーク)より、クリスマスメッセージと写真が届きました。

Dear all our friends in The Y's Men & Women's Club, Yokohama-Tsuzuki

From Randers Y's Men's Club we send our best wishes and greetings to you.

We wish you a Merry Christmas and a Happy New Year.

We hope, that 2017 will be a good year for your club, that your effort will do a better life for someone.

We ended our meetings last Sunday, when we went to service in a church in our city (A new church every year). After the service we had a lunch together and spent an hour together, before we went home.

We still are looking for new members, but can't find one. We still hope!

Yours sincerely
Med hilsen fra
Leif Repsholt

親愛なる横浜つづきクラブの皆様

皆さんが、素晴らしいクリスマスと新年をお迎えになりますよう、ランナーズY'sメンズクラブより心よりのご挨拶をお送ります。

私たちは、2017年が、皆様クラブにとって良い年であり、皆様のご努力が人々により良い生活をもたらしますよう願っています。

私たちのクラブでは、先の日曜に、本年の集会を私達の街の教会(毎年、新しい教会)での礼拝に参加して終えました。礼拝の後、家に帰る前の約1時間を、皆で昼食をとりながら過ごしました。

私たちは常に新メンバーの獲得に心がけてはおりますが、いまだ実現しておりません。しかし、希望は捨てません。

敬具

(ノルウェー語の"敬具")

リーフ・レプショルト



(PI巻頭言つづき) ような意識をもって、YMCAへの協力姿勢を堅持すべく、会員増強に励む必要がある。それにしても残念なのは、一部の心無い維持会員のワイズメンがYMCA職員を自分の召使いかのごとく顎で指図する光景に遭遇し、周りの人びとが痛く傷つけられたという話を時々耳にすることである。このようなワイズメンの態度は言語道断である。他方YMCA側に対しても、ワイズ会員の勧誘・紹介、ワイズ行事への積極的参加、YMCAプログラム参加者を中心とした新クラブの設立等、一層の協力関係強化を期待したいところである。(完)

Randers (ランナーズ)



1月のデータ

例会出席	14名	在籍会員数	20名	各種記録	前月	累計
メンバー	12名	月間出席数	18名	使用済切手	50g	60g
パートナー	0名	メーキャップ	6名	プルタブ	0kg	13.4kg
ゲスト	2名	月間出席率	90%	スマイル	0円	80,692円

**《報告》 横浜YMCA会員大会 ～平和の花を咲かせよう～ One World One Love One Heart
2017.2.11 @ 湘南とつかYMCA**

横浜YMCA会員大会は、YMCA会員の活動に対する理解促進と相互の交流を深める目的で一昨年から実施されたもの。今年は「平和の花を咲かせよう」をテーマに盛り沢山のプログラムが準備され、開会式(礼拝)に引き続き、館内所狭しと、様々なプログラムが展開されました。

開会式に続く基調講演は、十数年前、12歳の時にボートピープルとして家族と日本に漂着したベトナム人のトルオン・ディ・トワイ・チャンさんの想像を絶するこれまでの人生が語られました。

ベトナム戦争終結間近、チャンさんご家族が、他の数十名の人々と手製の小さな船で大変な思いで日本にたどり着く話でした。今、アフリカや中東の国々から、大勢のチャンさんと同じような子どもたちが、受け入れてくれる国を求めて彷徨っている現実に我々ももつと目を向け、何が出来るか真剣に考えなければならないことを気付かせてくれたチャンさんのお話でした。

なお、チャンさんは、現在、県内のYMCA幼児施設で、ベトナム語の通訳として、ベトナム人ご家族の支援をしております。

昼食後、我がつづきクラブは1階ホールにおいて、昨年と同様、久保/今城H各ワイズが司会・伴奏する「歌声広場」に参加し、大いに声を上げて、他のYMCA会員の皆様と共に楽しいひと時を過ごしました。

また、1階ホールでは、これ以外に、次のセッションが開催され我々も参加しました。

- 広島ピースキャンプのワークショップ
- バンクーバーYMCAユースピースネットワーク参加報告
- クロージングセレモニーとゴスペル演奏

★つづきクラブからは14名(内2名はYMCAスタッフ、1名はゲスト)が参加



《報告》つづきクラブ 2月事務例会・TOF・ピンクシャツデー 2月14日(火)18:00～ @ 伝都筑教会

出席者：(写真上段左より) 岡田K、今城T、鈴木S、横田、林S、辻'Ys (下段左より) 岡田M、鈴木K、胡麻尻(ゲスト)、久保、林M、今城H、岡崎、福島、三木 (全15名)

《協議事項他》

- 2016-17年度日本区宛ての献金額を、会長提案通り106,000円(内、メネット献金5,000円)と決定した。
- プルタブ回収は、漸次終了することとし、協力者には丁寧に文章でその旨お伝えする。
- 2月の本例会(24日)は、北YMCAとの交流会とする。
- その他所定の件につき協議。
- ピンクシャツデーの記念撮影。
- TOFにちなみ、会食は質素にトン汁とおにぎりとし、各千円の会費をTOF献金とした。
- 年度当初から半年間行った缶ペーンの缶を開けて献金を回収した。銀行に持ち込み計算してもらった。
- 昨年末からゲスト参加していた胡麻尻さんが3月入会の予定。

